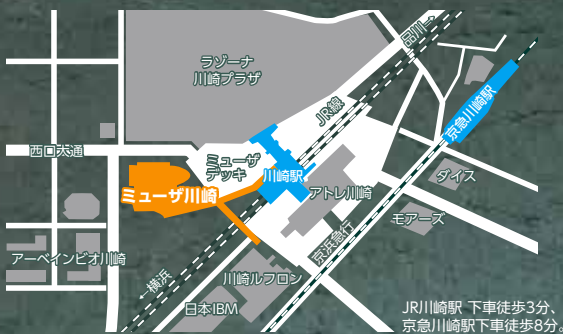


かくみみる、つなぐ

—こころの軌跡をたどる

こころの健康問題は、
今や国民の4人に1人以上が経験しています。
この問題の社会へのインパクトは大きいのですが、
そのことはまだ、十分に理解されていません。
人々のこころの健康を守るには、
多様性が尊重される社会づくりが重要です。
この展覧会では、こころの健康問題を経験したひとたちと
そのアートを中心に据え、
イベントや交流をとおして、こころの健康、
ひとの繋がり、社会のあり方などについて
改めて考え合いたいと思います。

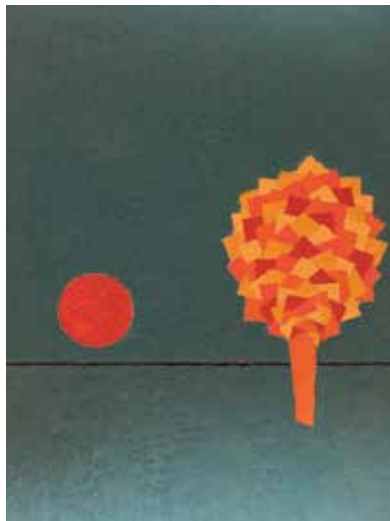


平成29年 12月2日(土)~17日(日) 10時~17時
ミュージア川崎シンフォニーホール 企画展示室ほか
(〒212-8557 神奈川県川崎市幸区大宮町1310)

●お問い合わせ
アートとトークによる多様性尊重の社会づくり展事務局
〒105-0011 東京都港区芝公園1-2-16 第一榎ビル2F (株)おおわだぐみ内
Email: arttalk@ohwada-gumi.co.jp

●第一コーナー

有馬忠士作品 有馬忠士-夢宇宙の闇と光をめぐる旅



有馬氏は1940年に東京で生まれました。1953年に父の経営する製菓会社が倒産、1956年に父は一家に破産および離散を宣告、家族全員が自活生活に入ります。有馬氏は高校卒業後、居所不定の流民生活を送り、1960年に東京都文京区の宝石貴金属製作所の飾り職人となり、またたく間に社内でも指折りの職人となりました。1964年には大阪の新支店に赴任しますが、その半年後に結核を発病し、結核療養所に入所、デッサン、油絵の制作に専念します。1966年に結核療養所を退所、翌年に独立し、飾り職人としての仕事は完成度を高めていきます。しかし、この間、婚約者が病死、1971年には幻聴、幻覚が始まり、神奈川県三浦市の精神科病院に6回の入退院をします。この頃、結核療養所入所以来の絵画創作活動が復活しました。1980年には入院先のケースワーカーの女性と結婚、数度の転居の末に、神奈川県横須賀市の山の中に居を定めますが、1982年に心臓麻痺で亡くなりました。この間、500点近い作品を制作し、それらの作品はご兄弟である有馬儀人氏によって大切に保管されてきました。有馬儀人氏の編集による「有馬忠士作品集」のあとがきには、「年数と作品点数を考えあわせると、そこに注がれたエネルギー量は1人の人間の一生分ではないか……私は絵画や詩作等の整理をしていて、はじめていろんな意味で兄を身近に知り、感じた」と書かれています。有馬氏の作品は色川武大氏の小説の表紙にも使用されています。

●第二コーナー

織田信生作品 王様と私と

土佐病院(医療法人須藤会 高知市)のデイケアで週1回、絵画指導をするようになってもうすぐ30年。絵のことならわかるが、精神医療や病気や障害についてはわからない。上手でも下手でもいい、とにかく絵を描こうといいながらやってきた。

しかし、振り返って見れば、30年のうち一番盛り上がったのは最初の10年、安定していたのが次の10年、それ以降は何となく尻すぼみになってきた。30年もたてば社会は変わる。精神医療も変わる。もちろん患者さんを取り巻く環境も。そして私も歳をとった。

患者さんの一人だった岡田さんをモデルに絵を描いたのは最初の10年の終わり頃から次の10年にかけて。1回1時間、500円のモデル料でこれも10年近く続いた。私は王様の絵を描く宮廷画家のような気分で、しゃべるか眠るか、どっちかしかできないモデルを前に、好き勝手に肖像画を描いた。鷹揚な岡田さんはもちろん、私がかんがえ通りに描こうと、まったく気にしなかった。

その岡田さんが今年の1月に亡くなった。この機会に、私と岡田さんとデイケアで知り合った患者さんの絵を展示して、この30年を振り返ってみたい。



●第三コーナー

クロマニンゲン集合

鹿児島県では、クロマニンゲン展実行委員会(代表 坂井貞夫)による「クロマニンゲン展」が2011年から開催されています。その第一回で、同展を次のように紹介しています。

—突然変異の芸術家たち「クロマニンゲン」。約4万年前、人類は突然絵を描きはじめた。クロマニヨンと名付けられた彼らは、明晰な頭脳と豊かな妄想力によって興味深い芸術を生み出した。それは人々の心に大きな影響をもたらし、文明へと発展し劇的な進化を遂げた。現代社会はその人類の英知の集大成である。しかし、人類は今、混沌の時代に突入したようだ。まるで矛盾した設計によってつくられた絶叫マシンに乗せられ、悲鳴と恍惚の叫びを上げているように見える。こうした現代の多次元的な衝撃波によって、芸術家たちに新たな異変が起きているのではないだろうか。ここに突然変異の天才芸術家たちを「クロマニンゲン」と名付け、そのユニークな作品展を開催し未来の始まりを見たいと思う。—

鹿児島島の「クロマニンゲン展」にヒントを得て、過去から現在へ、そして未来へとつながる「クロマニンゲン」の系譜と、個々の作家と作品への敬意を表して「クロマニンゲン集合」とさせていただきます。

この展示には平川病院(医療法人光生会 八王子市)において開催されている造形教室(主宰 安彦講平氏)のご協力もいただいております。同造形教室の説明は以下のとおりです。

—1968年から精神科病院内で継続されてきた「造形教室」。「治療」や「教育」といった、上から与えられ、課せられ、外から評価、解釈されるものではなく、それぞれが表現活動の主体となって自由に描き、身をもった自己表現の体験を通して、その人その人の内に潜在する可能性を引き出し、もう一人の自分と出会い、自らを「癒し」支えていく「営みの場」を目指し、試行し続けている。—

